

きらり★



謹賀新年



2024
1
No.929

〈年頭のご挨拶〉 新年を迎えて



女満別町農業協同組合
代表理事組合長 渡邊 勝美

組合員の皆様、新年あけましておめでとうございます。令和六年の輝かしい新春をご家族お揃いでお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、旧年中の農協事業運営に対しましてご理解とご支援を賜りましたことに、役職員一同厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、昨冬の積雪は平年より少なく、融雪も順調に進んだことから、播種・定植作業においては例年より数日早く行われました。

その後、6月から7月にかけては平年に比べて高めの気温で推移したものの、雨は日を開けてまとまって降るという状況を繰り返して、「局地的」「記録的」という豪雨が襲いました。7月後半から9月初旬まで極めて高温で推移し、まさに酷暑と言うにふさわしい三十度を超える日が続き、夜温も下がる事なく「熱中症アラート」が幾度となく報じられ、冷涼なオホーツク地区の気象も明らかに地球温暖化の影響を受けていると感じるものとなりました。その間、降水量は少なく経過し、畑は焼けあがるような状態となり、収穫を進める玉ねぎには被害が発生しました。9月に入り、少しずつ気温は低下し始めましたがそれでも例年と比較し高めの気温で経過しました。

管内においても、ここ数年頻発する集中豪雨による大規模災害が発生し、河川の氾濫や崩落、土砂流出により廃耕を余儀なくされるなど甚大な被害が発生し、被害に合われた方々には心よりお見舞いを申し上げます。

作柄では、小麦は開花期以降温暖な気象で推移し登熟期を迎え、7月の大雨による倒伏は一部で見られましたが、その後の高温により一気に収穫が進み、不調だった昨年を挽回し秋まき小麦春まき小麦ともに、多収・高品質となりました。

また、もち米も、小麦同様に豊作となり、ここ数年悩まされた胴割れ被害もなく、高品質な状態で収穫されました。馬鈴しょ、玉ねぎ、豆類、てん菜は、高温・猛暑の影響が収量

品質に如実に表れる結果となり、馬鈴しょでは収量は平年並みを確保したものの低ライマン、玉ねぎでは焼け症状の発生による歩留まりの低下、豆類は、金時類においては色流れ、小豆においては過熟や小粒、大豆は着色やシワの発生と多くが等外となりました。また、てん菜では、数日のうちに褐斑病による葉枯症状が広がり、糖分を大幅に低下させる事となりました。これらの収穫作業は、9月後半からの断続的な降雨により、馬鈴しょ収穫の遅れや小麦播種の遅れが発生し、完了まで気候に振り回されることとなりました。

黒毛素牛は、新型コロナウイルスの第5類移行による消費の好転を期待しましたが、これまでの長期間に亘る影響は残り続け、販売頭数は昨年並みを維持する事ができましたが、枝肉価格の低迷が続く低調な素牛価格となりました。生乳は、引き続き極めて厳しい生産環境の中、さらには猛暑による影響があり、目標数量の範囲内での生産となりました。

農協における設備投資では、てん菜共同育苗施設の増設や土壌病害虫まん延防止対策にかかる洗車場整備、ICT機器の高度化に対応する基地局の更新、SDGsの取り組みの一環となるペーパレス化に向けた事務設備整備などを計画通りに実施させて頂くことが出来ました。

世界及び国内の情勢に目を向けますと、引き続きロシアによるウクライナ侵攻に伴う様々な影響が経済へ波及し続け、生産資材価格、飼料、燃料の高止まり、更には、前年度から行なわれた経営所得安定対策の見直しも、それらの外的要因と重なり農業生産環境に大きな影響を与えるものとなりました。

これらのことから、JAGグループが一丸となり、食料自給率向上に向けた生産基盤体制確立や生産資材価格高騰対策など政府に対し食料安全保障対策の強化・拡充を強く求め、肥料高騰支援など国主導による対策が行われたところでありませんが、今後においても継続して諸対策の実施を求めて行かなければなりません。

当JAにおきまして、これらの今までに経験のない厳しい状況から、「令和五年度営農緊急支援事業」の実施を決定し、昨年十二月に支援金の支払いをさせて頂きました。

このように、農業・農協を取り巻く環境は厳しさを増す一方ではあります。令和六年度は、第一〇次中期農業総合振興計画・農協経営計画の実践二年度目となり、議決された振興計画テーマである「力強いめまんべつ農業」の歩みを止めることなく、協同の力の結集により、組合員皆様が豊かな将来像を描けるよう、ともに手を取り合い、役職員一丸となって取り組んで参ります。

結びに本年が好天に恵まれ、豊稔の秋を迎えられますこと、長期化する国際混乱が一日でも早く正常化すること、そして、皆様のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたし

迎春

女満別町農業協同組合

代表理事 渡邊 勝美

専務理事 高橋 肇

職務代理 岡田 貴憲

理事 安達 直行

福田 英信

大隅 貴博

岡内 篤志

前田 英典

小松 英二

常勤監事 檜 尾 茂

管理部長 山田 大

金融部長 石塚 宏樹

営農部長 伊藤 雅弘

経済部長 遠野 祐一

購買部長 北村 洋

監査室長 坂部 幸次

外職員 一同

令和6年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会

代表理事会長 樽井 功

新年あけましておめでとうございます。組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに對しまして、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年の北海道農業については、春先は天候に恵まれ地域によって降雪被害や竜巻の被害が見られたものの、概ね、平年並みに推移しておりました。しかしながら夏場は猛暑による記録的な高温多湿の影響を大きく受け、各作物の生育自体は、全般的に平年よりも早く進んできましたが、各作物等の収量および品質の低下が顕著となる残念な年でした。

新型コロナウイルス感染症の位置付けは昨年5月より5類に移行し、コロナ禍以前の日常を取り戻しつつありますが、各農畜産物の消費は依然として低迷しており、さらに、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが、農業経営に与える影響は甚大なものとなっています。

さらにこれらの影響を受け、世界の食料需給事情が一変しました。輸出制限を行い、自国の食料を確保する各国の動きが活発化し、世界的な人口増加による食料不足問題など食料争奪戦がすでに始まっています。我が国の食料を安定的にどう確保するのか。今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっています。

現在、日本の食料自給率は38%しかありません。これは、世界の先進国の中で最低の水準であり、6割以上の食糧を輸入に頼っているのが日本の現状です。

食料安全保障の強化が国家の喫緊の課題であることから、我が国の食料供給基地である北海道農業が果たしてきた役割、そして北海道農業への期待は、今後ますます大きくなるものと考えております。

JAGグループ北海道は、日本の食料基地であるという使命感に立ち、食料の安定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大を両輪として引き続き取り組むことが重要であり、国民の命の源である食を守り続けるにも、まさに新しい農業を築き、未来の世代へ繋いでいく必要があります。行政や全国連とも連携し、しっかりとその対応を図って参ります。

今年、第31回JAG北海道大会が開催されます。

また、第30回JAG北海道大会の実践最終年度であり、決議された将来ビジョンである、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」の成果をしっかりと検証し、次のJAG北海道大会に繋げていく必要があります。

このような状況であるからこそ、協同組合運動の原点に立ち返り、相互扶助の精神に基づき互いに協力し、力を合わせこの難局を乗り越えることが重要となります。

消費者の皆様に対しては、今まで以上に農業・食に対する理解を求めため、JAGグループ北海道統一の情報発信のフレーズである「アグリアクション北海道」を浸透させ、より効果的な情報発信を行い、JAGグループが提唱する「国産国産」の認知を広めて参りましょう。

結びになりますが、本年は辰年です。辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形がととのう年だといわれています。

この謂われにあやかり、本年が豊穰の年となること、皆様のご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

女満別町農協青年部

部長 下田 隆太

副部長 伊藤 啓太

書記長 舛本 凌

女満別町農協女性部

部長 田中 秀美

副部長 大橋 直美

辻 亜矢子

大空町女満別農協協議会

執行委員長 高橋 敬義

副委員長 古田 昭治

書記長 鈴木 大介

ホクレン農業協同組合連合会

女満別種子工場

工場長 小山 正晃

外職員 一同

ホクレン中斜里製糖工場

網走原料所

所長 田保 史明

所長代理 小木戸 勇介

職員 古田 雄大

年頭のご挨拶



網走農業改良普及センター
美幌支所
支所長 佐々木 康 洋

新年、あけましておめでとうございます。

令和6年の新春を、ご家族の皆さまや地域の皆さまとともに迎えのこととお慶び申しあげます。

また、当普及センターの活動に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、心からお礼申しあげます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症対策が5類に移行し、人流の活発化に伴い社会活動（消費や会合など）が多くなってきたことは、明るい兆しと捉えることができます。しかし、未だ止まない紛争に伴う国際情勢の変化が、農業経営を取り巻く環境にも大きな影響を及ぼしている昨今です。

さて、昨年の気象経過を振り返りますと、融雪期は平年よりかなり早く（14日）、4月の耕起始めから5月のは種や移植時期にかけて平年より高温少雨で推移し、春作業は順調に行われ、秋まき小麦の生育進度も平年より早まりました。

6月以降は、一言でいうと「暑い年」でした。特に7～9月は最高気温が35℃を超える日が複数日あるなど、「今日は暑い!!」という気が失せるほどの酷暑でした。その後も10月まで平年より高く推移し、農耕期間の気温は平年より高い傾向でした。

降水量は、平年と比較してやや多い傾向でした。記憶に残るのは、統計開始以来の極値を更新した7月13日の大雨でした。この大雨により、水没やほ場への土砂流入により作物の生育や収穫間近の小麦類に影響を与えました。

日照時間は、平年と同等でした。ただし、7月中旬と8月上旬が平年を下回り、作物の生育に影響を与えました。

各作物における作柄は、平年を上回ったのは「秋まき小麦」「ばれいしょ」「大豆」、平年並みとなったのは「水稲」、平年を下回ったのは「春まき小麦」「てんさい」「たまねぎ」「小豆」「菜豆」でした。特に、昨年の特徴である「高温」の影響を受けたのは、病害が多発して根中糖分も低下した「てんさい」、小玉化と強日射による日焼け球が多発した「たまねぎ」でした。

近年は、突発的豪雨や記録的大雨など、地球温暖化に伴う異常気象といわれる現象が毎年発生しています。昨年の気象経過や作柄を踏まえ、今後は気象変動に左右されない生産基盤の維持や栽培技術の組み立てが、より重要になると考えています。異常気象の頻発や国際情勢の変化により、生産現場において求められるのは、経験則に基づく判断力とスピード感とを考えています。その経験則は、地域において「暗黙知」として存在しており、スマート農業技術の実装化により経験不足をカバーできるほどになってきました。しかし、さらなる地域農業の発展のためには、未だ数多く存在する「暗黙知」を「形式知」に変化させ、言語化していく必要があると考えています。

昨年、農協の全面的な理解と協力を得て、ブロッコリー生産の育苗に焦点を当て、巡回や聞き取りによる健苗育成のための「暗黙知」を「形式知」に変え、言語化していく取り組みを始めました。この取り組みはブロッコリーだけに限らず、主要畑作物へも広げていきたいと考えています。

普及センターは、地域や「人」の中にあるヒント（答え）を基に、技術の習得や交換、提案技術の実証と検証の反復により技術を確立し、地域の「伸びしろ」を伸ばすべく活動しています。普及センター職員が皆さまのもとにお邪魔する機会がありましたら、貴重なお話をお聞かせいただけると幸甚です。

結びになりますが、本年が輝かしい年となるとともに、皆さまの益々のご多幸とご発展をお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

地区懇談会が開催されました

12月4～6日の日程で地区懇談会が開催されました。

クミカン精算及び令和6年度営農計画検討会、令和6年度事業計画案他について説明の後、懇談を行いました。各地区とも様々な質問や意見などが出されました。地区懇談会で出た貴重な意見等は、今後の農協運営の参考として参ります。

〔管理課 石川〕



J A青年部地区大会・全道大会の結果について

J Aめまんべつ青年部は、11月16日に北見市にて開催されたオホーツク地区大会と12月7～8日に札幌市にて開催された全道大会に参加しました。地区大会では「一歩漸進」、全道大会では「Step For The Future」をテーマのもと各地区の青年部活動の発表や、消費者へ農業の魅力を伝える動画選考や、純農boyという農業やJ A青年部活動に対して情熱を持った盟友の選考が行われます。

J Aめまんべつ青年部は「農業の魅力を伝える動画」を作成しエントリーしました。結果は地区大会では優秀賞、全道大会では優秀賞（農産物部門）を獲得することができました。

〔営農課 穴戸〕



女性部ボランティア活動

12月1日（金）にJ Aめまんべつ女性部を代表し、女性部三役がボランティア活動を行いました。

町内の高齢者施設の入所者と職員の方々に励ましの言葉を添えて、めまんべつ産加工食品と、今年度も女性部員から収集したタオルを配布しました。

ご協力頂いた関係者の皆様、ありがとうございました。

※事業実施にあたり、令和5年度歳末たすけあい義援金が配分されています。

〔営農課 上野〕





理事会レポート

第11回12/20開催

組合員状況 12月末日現在

組合員数		前月対比
正組合員	419名	(±1)
	(内24法人含む)	
戸数	259戸	(±0)
准組合員		
団体	163団体	(±0)
個人	321名	(±0)

◇議案

- ① 土地の売却について
- ② 福利厚生規程の改正について
- ③ 余裕金の運用計画及び運用方針について
- ④ 理事に対する資金の貸付について
- ⑤ 大口信用供与先への資金貸付について
- ⑥ 特定組合員への資金貸付について
- ⑦ 組合員の持分譲渡について

全議案原案通り承認されました。

＝協議報告事項＝

1. クレードル食品(株)定時株主総会について
2. 監査室の監査報告(中間)について
3. 11月末財務状況及び決算見込みについて
4. 令和5年12月開催 地区懇談会の質疑顛末について
5. 出資団体からの令和4年度配当金内訳について
6. 令和5年度 JA農業経営緊急支援資金の取扱について
7. JA資金貸付金利率の改定について
8. JA農業経営ステップアップローンの金利改定について
9. 令和5年産 農畜産物取扱高見込みについて
10. 特定組合員のクミカン年度未収支見込みについて
11. 農産物の精算状況について
 - 1) 令和4年産 民間流通小麦共同計算精算について
 - 2) 令和4年産 原・採種豆類種子の本精算について
 - 3) 令和4年産 共計大豆の精算について
 - 4) 令和4年産 春掘り長芋の本精算について
 - 5) 令和5年産 秋掘り長芋の概算金支払いについて
 - 6) 令和5年産 農協向け加工馬鈴薯の概算金支払いについて
 - 7) 令和5年産 もち米調整出来高実績の報告について
12. 固定資産の修繕について
13. 令和6年度事業計画に基づく玉葱コンテナのリース発注について
14. 組合員の異動について
15. その他
 - 1) 令和6年1月理事会のスケジュールについて
 - 2) その他の事項について

(価格 円)

12月4日開催 北見黒毛和牛 市場成績

		市場全体		女満別	
		本年実績	前年同期	本年実績	前年同期
去勢牛	平均価格	544,794	696,007	594,959	761,852
	出場頭数	218	199	42	28
	成立頭数	198	184	39	27
雌牛	平均価格	460,940	588,443	478,826	622,450
	出場頭数	176	148	28	23
	成立頭数	167	135	27	22

※価格は1頭平均・税込価格



食育インストラクター 岡村 麻純

寒い冬は鍋料理で乗り切ろう

冬になるとわが家の食卓に頻繁に登場するのが鍋料理です。湯気の出る鍋を囲んで熱々の料理を食べるのは、冬の幸せな時間です。

以前、雑誌の仕事で全国の郷土料理を取材した際、北から南までさまざまなご当地鍋があることを知りました。そんな中からわが家でも少しづつレシピを調べては挑戦してみています。みそのだしやサケが子どもたちに好評な北海道の石狩鍋や、「おにぎりがお鍋に入っている」と子どもたちが大興奮だった秋田県のきりたんぼ鍋、私の大好きなサトイモをふんだんに使った山形県の芋煮鍋や真っ白なスープでいただく福岡の水炊きなど、鍋メニューのレパートリーに加わったものがたくさんあります。



昔から愛される鍋には、ネギやハクサイなど冬が旬の野菜がたっぷり

と入っているものが多く、これら旬の野菜は冬の体を元気に保つのに一役買ってくれます。例えば、鍋に欠かせないネギは、昔から風邪にはネギが良いといわれていたように、アリシンという成分が血行促進に作用すると期待されていて、体を中から温めてくれます。他にも、ハクサイは風邪予防にもつながるビタミンCとともにカリウムが多く、塩分を取り過ぎてしまう冬には欠かせない野菜です。冬のキャベツにもビタミンCが豊富な上に、キャベツの特徴的な成分のビタミンUは胃の働きを助けてくれるので、おなかを壊しがちな冬にぴったりです。

こういった野菜がたっぷり食べられる鍋は、締めと呼ばれるスープの活用も魅力です。実は、野菜などに含まれる栄養は水溶性のものが多く、火を通す際、スープに溶け出してしまいます。しかし、締めでスープまでしっかり食べる鍋なら、栄養も無駄なくいただくことができます。

今年も新たなご当地鍋にも挑戦して、家族みんなまで外からも中からも体を温めて、元気に冬を乗り切りたいと思います。

みなさんの声 お待ちしております!!

JAめまんべつ広報誌「きらり☆」に対してのご意見や感想・要望や、お子様の絵やペトト白慢、お気に入りの写真などの情報を募集しています。例えば、こんな記事を見たい、こんな珍しいことがあったなど。

クイズに限らず絵や感想など応募いただいた中から抽選で景品を差し上げております。

応募方法については、本通信折込の応募用紙に記載いただき、農協正面玄関応募箱またはFAXにてのたくさんの方の応募をお待ちしております!!

JAめまんべつ公式SNS フォローをお願いします。

JAめまんべつ公式「Instagram」と「Facebook」にて、JAめまんべつのイベントや農畜産物など様々な楽しい情報を発信していきます。

より多くの人に女満別の魅力を届けられるよう、情報発信していきますので左側QRコードから気軽に「フォロー」や「いいね」をお願いいたします。



JAめまんべつ Instagram QR



JAめまんべつ フェイスブックQR

12月号の答え



- 1……ミカンの数が違う
- 7……屋根のデザインが違う
- 9……ミカンの皮がむけていない
- 10……カッスの形が違う
- 12……ミカんに葉が付いていない

正解された中から抽選で2名の方に景品を贈呈します。尚、当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年も「きらり☆」をご愛読よろしくお願い申し上げます。今年は辰年です。一昨年はコロナ禍、昨年は円安と苦労する年が続きました。2024年は日本の経済、そして女満別農業が天に昇る龍のように勢いよく上昇する年となりますこと願っております。

本年はみなさまにとって、ご多幸がありますことをお祈り申し上げます。

JAめまんべつ 営農課



JAへ就職希望者100%就職(令和4年度実績)

令和6年度学生2次募集

- 募集人員 15名程度(定員60名) ●男女共学 ●1カ年、全寮制(個室) ●満24歳未満(令和5年4月1日現在)
- 大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込
- 試験日:令和6年2月3日(土)
- 願書受付:令和6年1月9日(火)~1月24日(水) 消印有効
- 学校見学もできます



お問合せ
資料請求

JAグループ職員養成校



一般財団法人

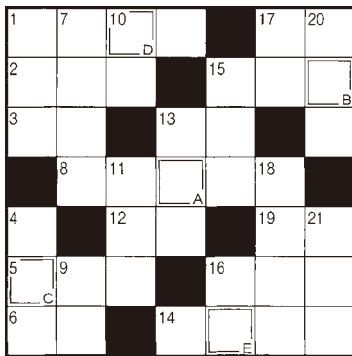
北海道農業協同組合学校

〒069-0834 江別市文京台東町 43-1

☎0120-918-417 【JAカレッジ】で検索

クロスワードパズル

二重マスの文字をA~Eの順次並べてできる言葉は何でしょうか?



ヨコのカギ

- おせち料理にも使うニシンの卵巣の加工品
- 旅行前に——ブックを買った
- 俳人が名作を生み出した地に建てられていることも
- 北を向いたとき西になる方向
- 丁寧というとご飯です
- 横網を先導して土壌が上がります
- セイウチの口からよっきり
- 農地——、道路交通——
- DNAが含まれる体の設計図。——操作
- 猫が中で丸くなっているかも
- 不要物を可燃、——、資源ごみに分別した
- 彼女は——を言わず彼を外に連れ出した
- エレベーターの表示では「B」



タテのカギ

- 大学入学共通テストの理科の科目の1つ
- キウイやボンカンの生産量が日本一の県
- エッセーともいいます
- かつお節や昆布で取ります
- ガラガラとうがいをして洗うもの
- ゆでた麵をざるにあげて行きます
- 大股の人は広めです
- カメやカッパの背に付いています
- や硯(すずり)を用意して書き初めをした
- カラオケで楽しむもの
- の計は元旦にあり
- 旧暦1月の異称
- 見張ること。——カメラ



応募要項

正解者の中から抽選で2名の方に景品を差し上げます。
 締め切りは1月26日(金)、JA正面玄関の応募箱に投函するか
 FAXにて応募下さい。FAX番号は応募用紙に記載しています。

